

幼児の金銭感覚

-子供の経済生活 その1-

加古 真子

(東京家政大学)

○ 研究目的 本研究は子どもの経済生活について a. 子ども自身が営む経済行為 b. 子どもがかかる経費の両面から一環追究するもの一部である。今回は幼児のお金に対する関心がどうようだ發現し、どんな場面でどうより伸び広げていくか、各年齢アプローチで述べた。今回は幼児期の金銭への関心興味は、感覚的であって、がむしゃら理解を伴って「家」の実態とそこから生ずる問題を検討する。

○ 研究方法 幼児の身近生活にはお金が今在する場面が多くある。お金にさわり、金とばく見たりお金と何かやりとりしまくれば遊びで再現したり実際に消費行為も始める。そういう事例採集500余件モチーフを基に考察する。

○ 観点と考察

幼児期を通じて金銭への関心興味は家庭の内外で非常に多様に表わされる。いずれも「ほほ」感覚・感覚的実感感である。但し、その強さや広がりは個人差があり、まれではほとんじんじ関心を示さぬ子のものもある。子どもがお金とかかわる場面は多くは人と接する(家族・友だち・店の人など)をもつているので、そつ生じる環境・地域性・親の考え方などからもはじめて考察をすすめる。

＜1＞ 口先き感覚での遊び

① FI(1才)すすむように1歳少し前あたりから、家用行為的手段が実現される始める。中には食べ物事。

② おり買ひの遊びでは、幼児期を通じてさかんに行われる、おもて遊ぶ方の一つである。実際に現金をもって実践する機会が増して遊びの中では、ウソココが通用する面白さがある。小手1年頃に減少する。

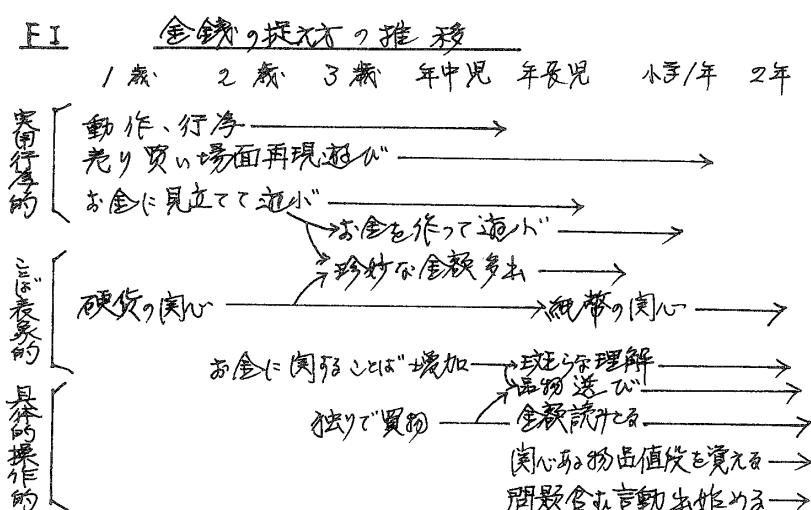
③ 硬貨10円・100円玉への関心が強い。紙幣については個体年齢もまだ確ての異同が少ない者が多い。ましてお年をうけて手にして即時金と親に渡してしまう高級感覚は「貴重」印象に残るが、実感が薄いようである。円型の物をお金に見立てて遊びは幣も硬貨が主流で、紙幣を用いてもなお硬貨への関心が高い。

④ 3~4歳から、さかんに枚数・金種が多くなる傾向が現われ、競争からも珍妙な額と言いつつも姿が見られる。口頭で表わす額に「おも」しも理解が伴うわけではなく、口先き感覚である。またヒヤクヤエン、ターミナルエン等を音の面白さで気分の活性化や効用ともうかがわれる。備記力と相俟って④無限に至る子もある。また勢い余てウソと混在する例もある。いずれもかく遊びの世界なりで、数を詰りこんでり、理窟をせめることは当たらない。

＜2＞ 構造を反映する

⑤ 例の子等は成人して、当時の年齢の一万円札をもつて、自分の名前で通帳をもとんどり子のものが持つている。昨今、カード・バーコード・暗証番号・メアドリーフ金貨・レンタル・円高などの語が幼児の口をつくようになってきて。⑥ 例だけでなく、大人の会話も行動もよく見聞きして、斑う字からわかる範囲を広げてしまつ。TV番組クイズによく、外國貨の呼称が混在する例も採集して。

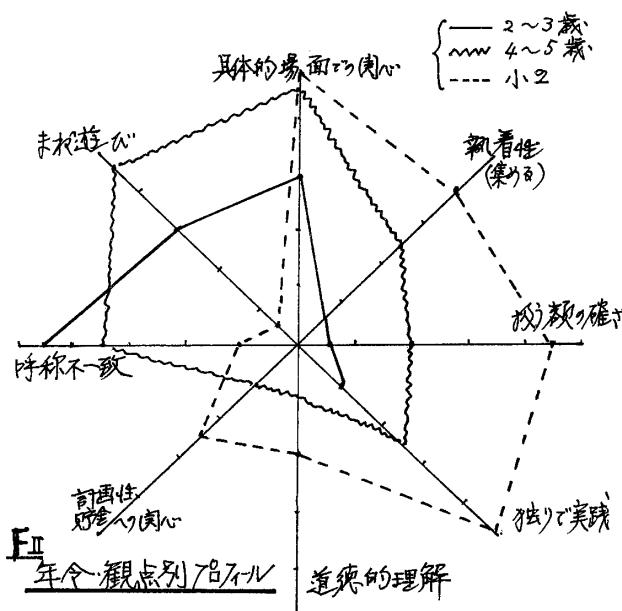
遊び中の会話に、「月給が上うる」「ボーナス出でうあげます」などせう辛さと再現する例がある。FIIに示す年齢別の成長は、一定の段と手順がいる。物とお金とを具体的な操作する体験と、そり体験を体系化し意味づけすることで、初めてそり子のもの内に走る。家庭に在る時に見せられることでなく、親の目の届く場所での言動に示唆が多く含まれてゐる。先を急かす、生活に確かなを。



＜37＞ 親の意識とズレと予盾
年長児の母親は「幼児がお金を持つこと」について質疑の回答の中に下記がある。（'89年1月）

否定的側例
「幼児にお金はまだ早い。当分不要。
お金は汚いから持つせないで下さい。
欲しい物はその都度買わなければいい。現金は不用
お金を使う快感を覚えられるに困るから違う(ほい)
小学生に2ヶ月1000円でおやつ等計画的ト
やせなから今からやれと覚えさせ(30~50)
1年生に2ヶ月3トイレ掃除をやせて小遣いとする。
字かかかせよう)に至つてから小遣いをつけていい。
同様に調べたお年を平均は18400円(1000円~4万円)
70%が「まだ早い」と述べている。大半は貯金やセイ
以外には、特に指揮は考えられていない。

りがふりしても幼児の在り実状からズレがある。
幼児とのえりゆき現金と全く無縁である例は、じく少數
である。遊び場中でしばしば美踏の子のものに譲れると
がる、お店やさんからシレお金に困るとは感じ
えていく子のものを見かける。そつ子や奥の度食は違
つても、幼児がまだ早いはおれ汚いからは通用
しない。神戸市では保健室に位置づけて、消費教育
室を63年度から始めている。商品を選んで購入
場に責任をもつて考え方を身につけておらうである。
スーパー試供品といつても食べ散らしても、勝手に
開けた袋菓子を放置しても知らぬ顔の母親がある。
一方でとうて1ヶ月1000円でおやつや小物へ計画的
である自立は中学生でも、望りまい。基礎作りは家庭で。
日々の生活で示されをお金についての言動を見て育
つまで、親自身が予盾に躊躇し家庭教育の軸にしてほしい。



- 事例
- ② 1:3女 (バス停で料金を持ちながら) アイ!と料金箱に入れる。買物支払いも一部を払いながら。
 - ③ 1:10B (名前で10円玉数個持つ) マンマーと言つ外へ出していく。毎日のように外へ歩くとせがむ。
 - ④ 2:0G (ひきあしから100円玉をもれは知らぬ) 菓子缶を
持つて来て(開けさせ、100円玉を手渡してアート! 菓子販賣)。
 - ⑤ 2:6B (木製オート木製オル数個) それ何? ゴシエーン、小川
は? シャクエーン、アゲナ! ダイジダイ。
 - ⑥ 3歳女 タバコ独りで喫いケルヨ、白い3コ持ツテ木。
茶色イ、オツリ、~シャン黄ウ。 (煙して笑う)
 - ⑦ 年中児B 500円持ツテルか? 持つてない。ホラ、アル
ヨーダ。オオサン即ハハラウト イクラモクル。オイヨネ。
 - ⑧ 年中児B - 春満施設、1ヶ月小遣い1000円(メタリーラン
本見で)コレ要ツ。これ要ツとマクタ…行けまくろみ。
シモーヤメル。(しばういて)ネー絶対メタルターマル目?
マクタ…モイハ駄目? (3回繰り返さず) 来ム
 - ⑨ 年長児B 2名 - 1月始業翌日、自分名義の預金通帳
持つてきて見せ合つ。持つて金額を数えて金額を流す。そばで
寄つてきの他児ド一オエアシタ持ツテコヨナコレ。
 - ⑩ 年長児B 昨日誕生日ヤフヤフタ。お金2万円貰
タ。Aオハチャント Bオハチャント。1枚ノデゲーム
券ウ/3500円。オツリ/500円ト、1枚ノト、貯金
スル。 Aオハチャントハ最後ナノ景セ? ダラテ木。
モウ年金生産ダカラ。イハハ貯メナイト。
 - ⑪ 年長児G オ小遣カンテ クレナヨ。家テ持ツ。1円ヤ
円ハ持ツナイデ 100円ノヤ50円ノハカクシドク。Qビド?
テレビ横フヨトカ。セロテアーテイトコニハツク。自分で
考えひ? チガウヨ。オ兄ちゃんヤツルカ一
⑫ 訓育直矢B (OOを語つて他児に説く) お・京・川
道… ナユタ・アソブキ。ムゲン 無限ダ! OOナ!

○結び

お金に関する自立、自律は青年期にかけての重要な課題の一つである。幼児期はその初期、感覚的で捉え方を始めひとりでいる。まだ欲望も癡情である。しかし、来いられる問題の芽は④⑤を含み多々ある。

お金を手取る初め日から、そつ幼い手にハド、お金を持つ責任、意味そして生きる使い方をハレして育て親の負担を忘れてはならぬ。単に「無駄使」しないこと、「小遣い帳を持つて」「貯金しなさい」といつぶ約束事で帳をしなつもりに余り、悪い習慣や迷惑から防げとしめうる余りに由無策にすぎない。

本研究の子のうちにかかる経費について次報で試すつもりが、[生きる使い方] いかに教えるかも含めて今後追究したい。